

現代心理学編 第3部 人間の情報処理

全5巻

監修●筑波大学教授 大内茂男
■時間:各巻 約25分

1 人間の情報処理

—私達の暮らしと情報—

〈指導〉 東京大学 東洋
筑波大学 海保博之

●カラー

現代人にとって「情報」は大変重要であると言われる。色々な場面で、色々な意味あいで、「情報」という用語が使われているのが現代である。

人間生活にとって、一体、「情報」とは何であろう。私たちは「情報」をどのように役立てているのであろう。「情報」を必要とするのも、それを臨機応変的に処理するのも人間である。人間の生活にとっての情報……

ここでは、この問題をインタビューや座談を通して考えてみる。

2 社会情報の処理

—うわさの社会心理学—

〈指導〉 京都大学 木下富雄

●カラー

私たちの住む社会や人間を一つの情報処理系と見た場合、そこにどのような特徴があるのか、機械系の情報処理系と比較して、どの点で共通性と異質性があるのか。

このような問題を探る糸口として、いわゆる「流言」とか「噂」と呼ばれる社会的情報が、社会的文脈の中でなぜ発生し、社会の中をどのように伝わり、その途上でいかに変容していくか、そのダイナミックスを多数の実例をもとに明らかにしていく。

3 記憶情報の処理

—保持と忘却の心理学—

〈指導〉 信州大学 松田隆夫

●カラー

私たち人間は、間断ない情報の中で“生ける情報処理系”としての様々な機能を介して、毎日の生活を適応的に営んでいる。そのなかの大切な機能の一つに「記憶」の問題がある。

ここでは、最初に人間の記憶過程を全体的なシステムとして理解するための大枠を図式（流れ図）で示した上で、順次、日常的な素材を援用しながらその理解を一層具体的に深めるとともに、「記憶——保持と忘却——」についての一人ひとりの常識的あるいは学問的関心を高めていく。

4 運転時における情報獲得の重要性

〈指導〉 大阪大学 長山泰久
大阪大学 三浦利章

●カラー

運転行動は私たちの様々な特性が現れてくる典型的な日常行動の一つであると同時に、視覚情報がきわめて重要となるものである。そこでは、たえず変化する状況に対処し適応していくために次々と情報を獲得・処理していかなければならない。

ここでは、運転行動における「見る」ということの働きと特徴を説明し、つづいて事故問題から導き出された視覚情報の獲得の仕方に関する仮説—検証の経緯を示す。このことから、私たちの実際の運転行動に対する理解と学問的関心を高めていく。

5 行動のための視覚情報の獲得・処理メカニズム

—運転行動を中心として—

〈指導〉 大阪大学 三浦利章
大阪大学 長山泰久

●カラー

運転場面は実験室内とは異なり、行動と情報の時間的文脈、および情報の獲得・処理の能動性が重要となり、生きた視覚情報の獲得・処理を理解するために重要なものである。

ここでは、見るということと注意との関係を概説し、つづいて要件の増大にともなって、注視方法と有効視野がいかに変化するかについての一連の仮説—検証の経緯を示す。このことから、私たちの実際の行動のための視覚情報の獲得・処理に対する理解と学問的関心を高めていく。